

令和8年度 緑中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	263	61	57	5.6	13.1	495 (501)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題（１）

○全国学力学習状況調査

【国語】

平均正答率では全国平均より-2.9ポイント、府平均より0.0ポイントであった。無回答率では全国平均より+0.7ポイント、府平均より-0.2ポイントであった。領域別での平均正答率では、

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項で全国平均より-5.0ポイント、府平均より-2.4ポイントであった。

(2)情報の扱い方に関する事項で全国平均より-2.5ポイント、府平均より+1.1ポイントであった。

A 話すこと・聞くことでは全国平均より-0.7ポイント、府平均より+3.0ポイントであった。

B 書くことにおいて全国平均より-2.5ポイント、府平均より+0.4ポイントであった。

C 読むことでは全国平均より-0.3ポイント、府平均より+2.6ポイントであった。

【数学】

平均正答率では、全国平均より0.0ポイント、府平均より+2.0ポイントであった。無回答率では全国平均より+2.7ポイント、府平均より+0.8ポイントであった。領域別での平均正答率では、

A数と式では全国平均より-0.4ポイント、府平均より+1.8ポイントであった。

B図形では全国平均より-1.7ポイント、府平均より-1.0ポイントであった。

C関数では全国平均より-0.6ポイント、府平均より+1.4ポイントであった。

Dデータの活用では全国平均より+0.7ポイント、府平均より+4.5ポイントであった。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題（２）

【英語】

平均正答数では、全国平均より-0.3ポイント、府平均より-0.2ポイントであった。

技能別平均正答数集計値は

「聞くこと」では、全国平均より0.0ポイント、府平均より0.0ポイントであった。

「読むこと・書くこと」では、全国平均より-0.1ポイント、府平均より-0.1ポイントであった。

「話すこと」では、全国平均より-0.3ポイント、府平均より-0.2ポイントであった。

IRTスコア集計値では全国スコアより-4ポイント、府スコアより-2ポイントであった。

今後に向けて

【国語】

文脈に即して正しく漢字を書いたり、適切な語句を使用したりできるように、文章を書くときは漢字や語句を調べてから書くように習慣づける。気持ちがいかに伝わるように書く、という項目は高い正解率を出しているため、引き続き指導していく。ら抜き言葉の正答率は低い、根拠強く指導する。可能助動詞の正解率は高かったため、文法のテスト出題を続け、正解率の落ちることがないようにする。

【数学】

図形を自ら描いたり、問題文から図形を想定することに苦手意識があるように考えられる。そのため、今後は今まで以上にICTを利用した視覚的支援を含む授業づくりをする。ただ、その他の項目では府より高い平均正答率のため、引き続き授業の最初の十分間で既習事項の振り返りを進めていく。基礎を軸に応用問題も含めて生徒全員に学びある授業になるよう取り組んでいく。

【英語】

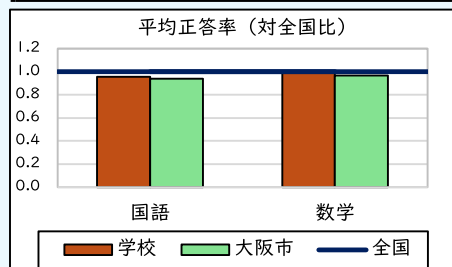
聞くこと：授業では教科書のlistening sectionを答えのみ重視するのではなく、聞き取れた単語や、教師のextra questionなど全体の流れを把握できているかを確認しながら進めているが、どちらの平均も上回っていない結果を受け、その回数が足りないこと、聞く量が少ないことが要因としてあげられるため、毎回の授業でリスニングの時間を最低5分設ける。その内容は全体を把握するもの、short sentenceにし、耳を鍛える。

読むこと・書くこと：どちらの平均も上回っていない結果を受け、生徒が主体的に学ぶ授業展開という部分において、まだまだ改善の余地がある。トピックを決め、自分の言葉である程度長い文章を書けるよう週末の宿題として英語で書かすなど、自分の生活の中に英語を取り入れさせる。読むことでは、引き続き文全体の要約ができるよう教科書ワークを使い、長文にも慣れることを目標とする。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

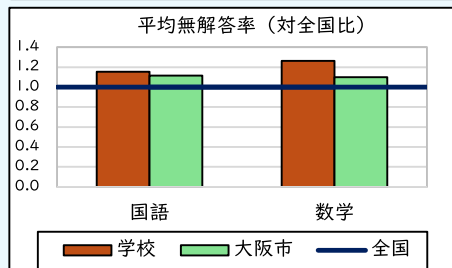
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	61	57
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



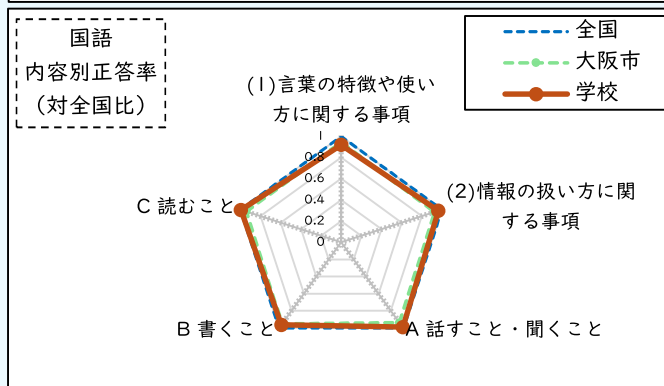
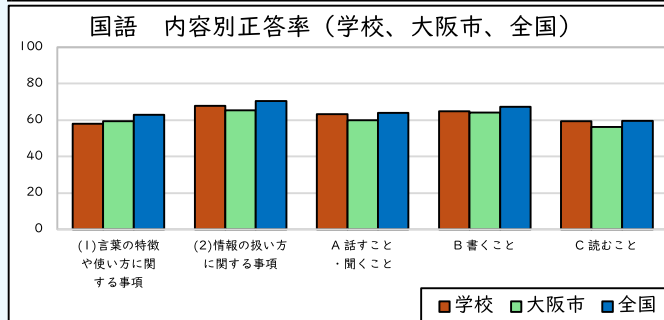
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	5.6	13.1
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



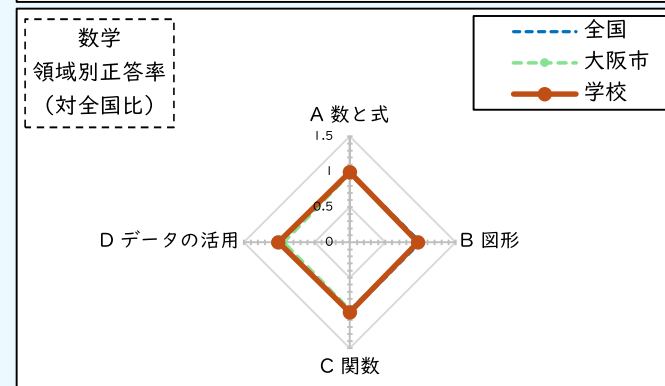
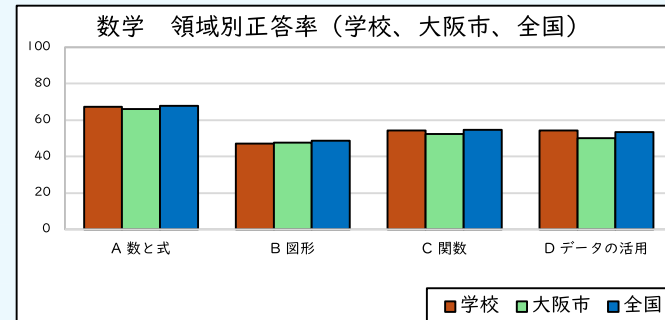
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	5	58.0	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	67.9	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	63.2	59.9	63.9
B 書くこと	3	64.9	64.2	67.4
C 読むこと	3	59.4	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	67.4	66.1	67.8
B 図形	4	47.0	47.6	48.7
C 関数	3	54.2	52.5	54.8
D データの活用	4	54.2	50.2	53.5



令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

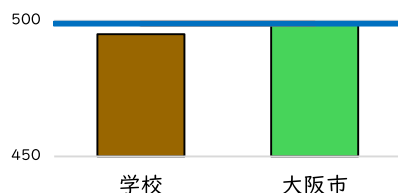
英語 平均IRTスコア

学校	495 (501)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※4技能の平均IRTスコアです

※（ ）内は3技能の平均IRTスコアです

平均IRTスコア 英語4技能



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

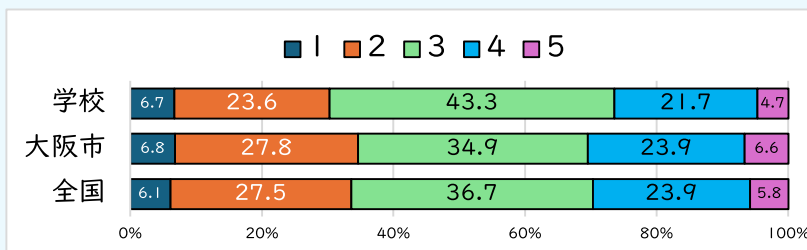
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

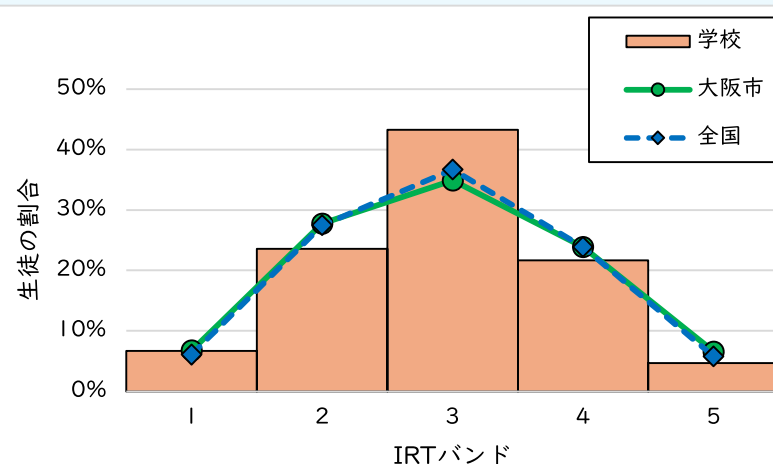
	1	2	3	4	5
学校	6.7	23.6	43.3	21.7	4.7
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）

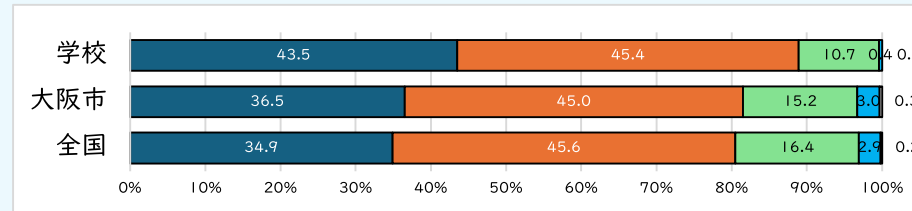


生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

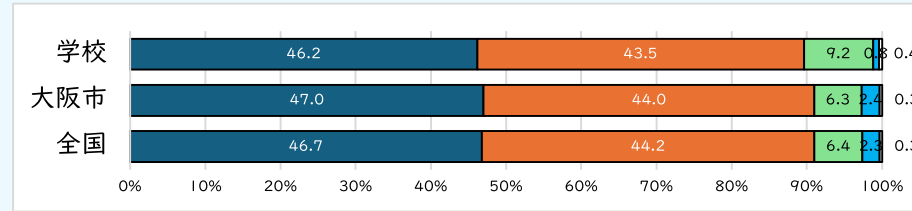
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号	質問事項
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



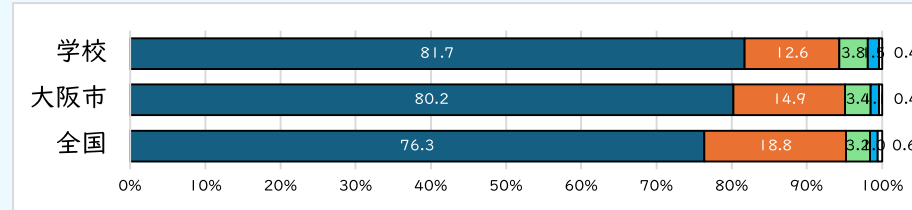
- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(9)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
-----	------------------------------



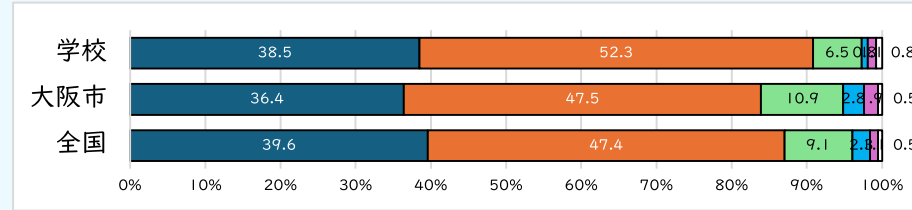
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
------	------------------------------



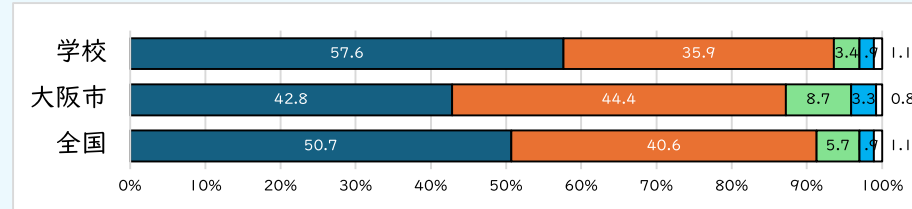
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(42)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
------	---



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

(51)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
------	---



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

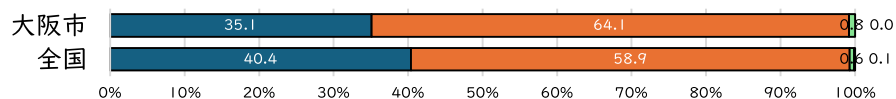
質問番号

質問事項

(16)

ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

【学校の回答】 2 一部取り入れている

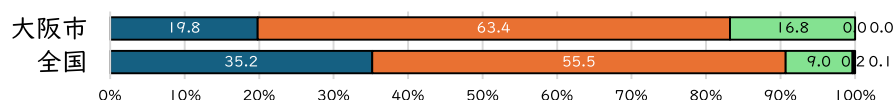


- 1 十分に取り入れている
- 2 一部取り入れている
- 3 全く取り入っていない

(20)

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いですか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

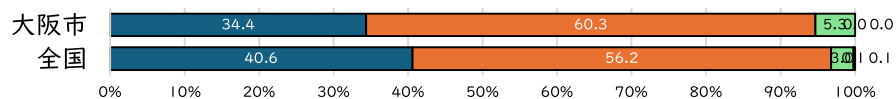


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(43)

調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

【学校の回答】 1 よくしている

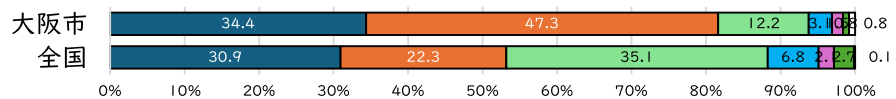


- 1 よくしている
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(75)

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

【学校の回答】 2 毎日持ち帰って、時々利用させている

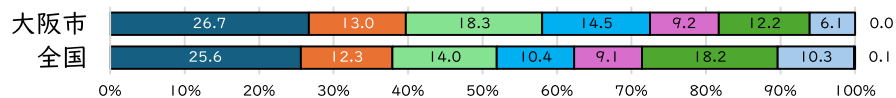


- 1 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 2 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 3 時々持ち帰って、時々利用させている
- 4 持ち帰らせていない
- 5 持ち帰ってはいけないこととしている
- 6 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

(78-1)

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1) 不登校生徒に対する学習活動等の支援(78-2)の授業配信

【学校の回答】 4 月1回以上



- 1 ほぼ毎日
- 2 週3回以上
- 3 週1回以上
- 4 月1回以上
- 5 月1回未満
- 6 活用していない
- 7 該当する生徒がいない